

ニーナ会議 ーかもめよりー

登場人物

オリジナルニーナ

ニーナ1

ニーナ2

ニーナ3

トレープレフ

トリゴーリン

はじまり

そこには真っ赤な丸テーブル。
同じように真っ赤な椅子が4つ。
ぶつぶつと、何かのセリフをつぶやきながら、
女が4人やってくる。
必要なのをそれぞれ持ち、
椅子に座るものもいれば、
テーブルに座るものもいる。
床に寝転ぶものもいる。
手には何かの台本。
製本しているものもいれば、
バラバラに持つものもいる。

それぞれがつぶやいていたセリフ。

人も

ライオンも

鷲も

雷鳥も

角を生やした鹿も、

鷲鳥も、蜘蛛も、

水に棲む無言の魚も、海に棲むヒトデも、

人の目に見えなかった微生物も、

つまりは一切の生き物、生きとし生けるものは、

悲しい循環をおえて、消え失せた。

もう何千世紀というもの、

地球は一つとして生き物を乗せず、

あの哀れな月だけが、

むなしく灯火をともしている。

今は牧場に、寝ざめの鶴の啼く音も絶えた。

菩提樹の林に、こがね虫の音ずれもない。

やがてひとつの声になって、

言葉の全貌が明らかになっていく。

ニーナたち 寒い、寒い、寒い。うつろだ、うつろだ、うつろだ、うつろだ。不気味だ、不気味だ、不気味だ。あらゆる生き物のからだは、灰となって消え失せた。永遠の物質が、それを石に、水に、雲に、変えてしまったが、生き物の霊魂だけは、溶け合わさって一つになった。世界に偏在する一つの霊魂、それがわたしだ。このわたしだ。わたしの中には、アレクサンドル大王の魂もある。シーザーのも、シェイクスピアのも、ナポレオンのも、最後に生き残った蛭のたましいも、のこらずあるのだ。わたしの中には、人間の意識が、動物の本能と溶け合っている。

数人のニーナたちが言葉を発しているが、

そのうち、

ひとり、発することをやめ、

ニーナたち わたしは、何もかも残らずみんな、覚えている。わたしは一つ一つの生活を、また新しく生き直している。わたしは孤独だ。百年に一度、わたしは口をあけて物を言う。この空虚のなかにわびしくひびくが、誰ひとり聞くものはない。お前たち、青い鬼火も聞いてはくれない。夜明け前、沼の毒気から生まれたお前たちは、朝日のさすまでさまよい歩くが、思想もなければ意志もない、生命のそよぎもありはしない。お前のなかに、命の目覚めるのを恐れて、

またひとり、発することをやめ、

ニーナたち 永遠の物質の父なる悪魔は、石や水のなかと同じく、お前のなかにも、原子の入れ替えをしている。お前は流転する。宇宙のなかで、不変のものがあればそれはただ霊魂だけだ。うつろな深い井戸へ投げ込まれた囚われ人のように、わたしは居場所も知らず行く末のことも知らない。わたしには分かっているのはただ、物質の力の本源たる悪魔を相手の、たゆまぬ激しい戦いで、結局わたしが勝つことになって、やがて物質と霊魂とが美しい調和のなかで溶け合わさって、世界を統べる一つの意志の王国が出現する、ということだけだ。

さらにもうひとりも、発することをやめた。

オリジナルニーナだけが赤い丸テーブルの上で。

オリジナルニーナは必死にセリフを言うが、
他のニーナたちはテーブルの上にお菓子や飲み物をひろげ、
ボリボリと貪り食う。

ニーナ しかもそれは、千年また千年と、永い永い歳つきが次第に流れて、あの月も、きららかなシリウスも、この地球も、すべて塵と化したあとのことだ。その時がくるまでは、怖ろしいことばかりだ。そら、やってきた、わたしの強敵が、悪魔が。見るも怖ろしい、あの火のような二つの目。

ニーナ1 マジでこれやるわけ？ 恥ずかしくない？

ニーナ2 ニーナってば、そういう身も蓋もない言い方よそうよ。トレープルフ、やる気満々なんだから。味方はニーナだけなんだし。

ニーナ3 ちょ、ちょちょ、ちょま、ちょまて、ちょっと待って、ニーナ。冷静に言うと、私はやめたほうがいいと思うほうに一票だから。

ニーナ2 もうニーナまでそういうこと言う？ 言葉にしちゃうと本当にやる気がなくなるからダメなんだってば。

ニーナ1 本気でマジでやりたくないんだけど。ニーナはどう思うよ？

ニーナ2 私は、一度はやるって言ったんだから最後まで責任持たなきゃって考えるほうだから。うん、頑張る。とにかく頑張るよ。ニーナこそどう思うの？

ニーナ3 頑張るとか学生じゃないんだから。私が気になるのは、この戯曲が雰囲気のみで押してるってところが拭いきれないかな。トレープルフって勢いで書いて陶酔して推敲しないのが難点なんだよ。

ニーナ1 なに頭のいいフリしてんの？

ニーナ3 フリじゃなくて、私だって考えてるんです。

ニーナ2 やだそういうの。理屈こねる女は男に嫌われるよー。

ニーナ3 ニーナ、その考え方古くない？

ニーナ2 あ、このチョコいただきー。

ニーナ3 ちょっ、ま、それ、私の、ニーナの！

ニーナ2 ニーナだよ。

ニーナ3 ニーナだけど。

ニーナ1 どっちでもいいわそんなもん。とにかくやんないから。

ニーナ3 ニーナさ、感情論じゃなくてもっと冷静で分析的に生きようよ。

ニーナ1 私は自分に正直に生きたいわけよ。自分に嘘つくって最悪じゃん？

ニーナはそう思わないわけ？

ニーナ2 でもさでもさ、人って支え合って生きてるわけだし、

ニーナ1 え誰と誰が支え合ってるの？

ニーナ2 だからニーナとトレープレフ、

ニーナ1 え！？ 私ってトレープレフに支えてもらってるわけ！？

ニーナ2 えだって、似たもの同士だし。

ニーナ1 どころへんが？

ニーナ2 家族の愛に恵まれてない。

ニーナ1 痛いところ突くな。

ニーナ3 ああ、だからお互いに存在価値を確かめ合うんだあ。

ニーナ2 それにね、ニーナが舞台上に立ってるんだよ。これってトレープレフのおかげじゃない？

ニーナ3 それはそうだけど、あそうか、こんな田舎でセリフが言えるだけでもありがたいってことか。

ニーナ1 ニーナ、しっかりしなよ！ 舞台つつたって、ソーリンさん家の庭だよ？ 家庭劇だよ？ 劇場じゃないんだよ！？

ニーナ3 トレープレフは劇場否定型だから。

ニーナ1 観客は誰だよ、身内だけだし。

ニーナ2 アルカージナとトリゴーリンが目玉のお客じゃない。

ニーナ1 お金持ちのお遊びじゃん！

ニーナ3 ちょい待って、厳密に言うとお金持ちなのはお母さんのアルカージナ。有名な女優だし。年増だけど。トレープレフ個人はさ、あれ、なんて言えばいいんだろう？ え？ まさかのニート？

ニーナ1 カタカナで言うなよ、なんか軽くなるから。無職っしょ、無職。ニーナたち、ほれ言ってみな。

ニーナたち 無職。

ニーナ1 どうよ？ 漢字で言うのと重みが違うっしょ？

ニーナたち 違うねえ。

ニーナ1 テレビのニュースで、犯人はニート、よりも、犯人は無職、のほうがドシツとくる。

ニーナ3 あ、分かる。内縁の夫、って言われるだけでなんか犯罪の匂いがするよね。

ニーナ2 言葉って大事ね。

ニーナ1 それで言うなら私いっつも疑問なんだけど、ニュースでよくバールのようなもので殴られ、とか言うじゃん？ あれなに？ バールのようなもの

って、バールじゃダメなわけ？

ニーナ3 だってまだ検証できてないから、like a バールって言うしかないんじゃないの？

ニーナ2 なるほどね。

ニーナ あのお。

ニーナたち なに？

ニーナ 話脱線してるよ……ニーナたち……

ニーナ1 あ、ごめん。ナンの話だっけ？

ニーナ トレープレフのお芝居の、

ニーナ2 そだそだ。

ニーナ 今日の本番のためのお稽古を、

ニーナ3 これさあ、ニーナがテキレジしちゃダメなのかな？

ニーナ1 え、ニーナ、あんた、セリフとか書けるの？

ニーナ2 やだあ、私、女優よ？

ニーナ3 稽古でセリフを言えば言うほどさ、劇構造が分からなくならない？

ニーナ2 え、なに今のどういう意味？ 通訳して。

ニーナ1 眠たくなるって意味じゃない？

ニーナ3 ん、ちょっと聞きかじった言葉使っただけ。

ニーナ2 やっぱあんたもニーナだったね。

ニーナ1 だからほらね。マジでこれやるの？ って言ってるじゃん。しかもあいつさ、舞台効果のために、なんか臭い匂い撒き散らす演出考えてんだって、寒い、寒いよお。そういうの、演出の手触りが見えすぎて寒いよ。

ニーナ3 でも匂いは確かに効果的ではあると思うよ、ニーナ。

ニーナ1 どんな効果があるっての？ ニーナ。

ニーナ3 匂いって直接脳に語りかけるらしいよ。

ニーナ1 でも卵の腐った匂いを撒き散らすって言ってたよ。

ニーナ 硫黄だよ……

ニーナ2 温泉に来たみたいになるよね。ところで硫黄泉で有名なところってどこだっけ？

ニーナ1 ていうか、ニーナ、温泉なんか行ったことないくせに。

ニーナ3 あそうそう、温泉って言えばさ、

ニーナ ちょっと、ニーナたち！ また脱線してるってば！

ニーナ1 しょうがないじゃんよ、ニーナって注意力散漫なんだから。

ニーナ3 自分で言っちゃ世話ないよ、ニーナ。

ニーナ ああ、もう、頭のなかでおしゃべりが止まないー！

ニーナ2 こういうの女子力高いって言うんじゃないの？

ニーナ 話を、戻す！ いい？ ニーナたち。

ニーナ3 うん、だから硫黄の匂いは、世界の終わりの匂いって感じにしたいんじゃないかな。

ニーナ2 ま、セリフもそうだけど、雰囲気はあるよね？

ニーナ1 雰囲気はな。

ニーナ3 私、ここは結構好きだけどね。

ニーナ え、どこどこ？

ニーナ3 わたしの中には、アレクサンドル大王の魂もある。シーザーのも、シェイクスピアのも、ナポレオンのも、最後に生き残った蛭のたましいも、のこらずあるのだ。

ニーナ2 あ、ここね。スピリチュアルを感じるね。

ニーナ わたしの中に全てある、ね。

ニーナ3 だってさ、これってまさに今の私たちじゃない？

ニーナ 私、たち？

ニーナ3 あっちこっち飛ぶ思考回路。頭の中がうるさい原因。

ニーナ1 天使と悪魔が言い合ってるやつだな。

ニーナ2 ああ、そういう意味？

ニーナ3 人ってさあ誰でも頭なかでいろんなこと考えてるもんじゃない？

脳みその奥底覗いたらもうまるで宇宙みたいなものだよ。

ニーナ え、このセリフってそういう意味なの？ わりと深いね。

ニーナ3 いや、知らないけど。

ニーナ1 知らないのかよ。

ニーナ2 でもさあ芸術的にしたいのは分かるけど、意味不明じゃない？ これじゃ売れないよね。サクッと胸キュンの恋愛物語にすればいいのにい。

ニーナ1 でも物語に必要なのは冒険じゃん？

ニーナ2 恋愛が人生の一番の冒険でしょ。

ニーナ1 もっと笑えるとか。なんかこうスカッとするとか。

ニーナ3 キャッチーじゃないのは確かだよ。

ニーナ1 普通さあみんな毎日つらい思いして働いてんだよ。いいことねえなあって会社とか行ってんのよ。日頃の面倒くさいこと忘れて楽しみたいのに、永遠の物質とか言われてどうしろっての？

ニーナ 永遠の物質ってナニ？

ニーナ3 え、物質は溶け合わないけど、霊魂は溶け合うってことじゃないの？

ニーナ1 え、これって生まれ変わりの話？

ニーナ2 え、そうなの？

ニーナ3 物質、経済にしがみ付いている人間を悪魔って読んで、精神世界を讃えてるんじゃないの？

ニーナ2 やだ、どこにそんなこと書いてあった？ さっぱり分かんない。いつか、もう燃やしちゃう？

思わずニーナと、ニーナ1が止めた。

ニーナ1 あ、でも、言葉は、まあ美しいんじゃない？

ニーナ3 ニコニコしながら、ニーナが一番ひどいな。

ニーナ2 中身はナンだっていいからさつきと有名になってくんないかなあ。

ニーナ え？ なれると思う？

ニーナ2 ちょっと、恐ろしい疑問を投げかけないでくれる？

ニーナ1 あいつはただの厨二病じゃん？

ニーナ3 とりあえずトレープレフは新しいことがしたいんだよね。

ニーナ うん。新しい形式って、いつも言ってる。

ニーナたち、テーブルの上の戯曲に目を落とす。

ニーナ1 本当に新しい形式を突き詰めるなら、それならいいんだよ。それなら。でもあいつ、

ニーナ 何が気になる？

ニーナ1 だってあいつ、おかんに対する反発で言ってるだけじゃん。

ニーナ あー、それ言っちゃうんだ。

ニーナ1 ニーナはどう思う？

ニーナ 型にはまった古臭い芸術をぶっ壊してやるんだって、いつも言ってるから、そうなんだって、

ニーナ1 ニーナ、よく考えな、あんた、本気でそう思ってるわけ？

ニーナ うーん……

ニーナ2 この人、本当は、何がしたいんだろうって、思うことはある、かな。

ニーナ3 ママンに褒められたいって、それが本音じゃないの？

ニーナ1 ただ寂しいんじゃないのかな……

ニーナ でもぶっ壊すなら……今を、

ニーナたち ん？

ニーナ なにかもぶっ壊せるならいいなって、思ったのは本当だよ。

お互いを見つめるニーナたち。

ニーナたち うん。

ニーナたち、何か気配に気づいて、
一斉に、部屋の扉に耳をくっつける。

ニーナ パパ、まだ家にいるみたい。

ニーナ1 あの女もいるね。

ニーナ2 あの女って、ニーナったら、ママハハでしょ。

ニーナ3 もっと正確に言うなら、パパの女ね。

ニーナ 二人とも、私が女優になるなんて絶対に許さないふたりよ。

ニーナ2 ママが生きててくれたら……

ニーナ ニーナ、それは言わないで。

ニーナ2 ごめん。

ニーナ パパだって、もうパパって呼びたくないくらいよ。

ニーナ1 私たちからママを奪ったんだから。

ニーナ この家はおかしいわ。誰もかれも。息がつまる。

ニーナ2 ママ……

ニーナ 泣かないのよ、ニーナ。もうママは戻って来ないんだから。

ニーナ2 ニーナが泣かないから私が泣いてるんじゃない。

ニーナ3 ママの最後にさえ、立ち会えなかった。

ニーナ1 パパのせいよ。

ニーナ もう言わないで。

ニーナ3 あ。

ニーナ 何？

ニーナ3 出かけるみたいよ、ふたりそろって。

ニーナ 良かった。開演時間には？

ニーナ1 大丈夫、今なら間に合うよ。

ニーナ 絶対に、今日、私は舞台に立たなきや。

ニーナ1 でも身内しか観ないんだよ？

ニーナ2 バカね、目当ては大女優アルカージナ、と。

ニーナ 人気沸騰中の作家のトリゴーリン。

ニーナ3 これって、チャンスだよね。

ニーナ そう、チャンスは掴まなきや。

ニーナ1 この家から出られるチャンスと、女優になるチャンスだね。

ニーナ2 ねえ、ニーナ、へんなこと聞くけど。

ニーナ 何？

ニーナ2 トレープレフのどこが好き？

ニーナ ……ニーナたちは、どう思う？

ニーナたち 分かんない……

ニーナ 私も分かんない。でも恋って、そうやって分かんないうちに落ちるものじゃないの？

ニーナ1 ん？ いっトレープレフに落ちたっけ？

ニーナ2 んー？ あの陰鬱な瞳は結構惹かれるものはあるけどね。

ニーナ3 たまに捨てられた子犬みたいな黒目になるところとかね。

ニーナ ほっとけないって感じ。あ。

ニーナたち 何？

ニーナ 扉が開く音をした……行こう。でもタイムリミットがある。パパたちすぐに戻ってくるから。急いで！

オリジナルニーナはひらりとテーブルから飛び降りた。

ニーナたちはひらりと水色のシートを引っ張る。

それはあたかも湖のように見えるだろう。

トレープレフ これが僕の劇場。書割りなんかひとつもない。いきなりパッと、湖と地平線の眺めが開けるんだ。幕あきはきっかり8時半。ちょうど月の出を目がけてやる。

トレープレル、耳をすます。

トレープレフ 足音が聞こえる。

トレープレフ 僕はある人なしじゃ生きられない。あの足音までがすばらしい。僕は、めっちゃめっちゃに幸福だ。さあ、可愛い魔女が来た、僕の夢が、

ニーナ、息を切らして走りこんでくる。

ニーナ あたし、遅れなかったわね。ね、遅れてないわよね。

トレープレフ 大丈夫。

ニーナ 父が出してはくれまいと、気が気じゃなかったわ。でも今しがた継母といっしょに出かけたの。

トレープレフ 目が赤い。泣いてたの？

ニーナ 平気。

ニーナ、少し顔を伏せる。

ニーナ あたし、30分したら帰るわ。大急ぎなの。ここへ来たこと、父には内緒よ。父も継母もここへくるのは反対だから。ここはボヘミアの巣窟だって。あたしが女優にでもなりはしないかと心配なのね。でもあたしはこの湖に惹きつけられるの、かもめみたいだね。それに胸の中は、あなたのことでいっぱい。トレープレフ 僕は君が好きだ。

月明かりが二人を照らした。

ふたりは空を見上げる。

ニーナ 月……

トレープレフ 時刻だ。

トレープレフ みんな持ち場についてくれ。アルコールの用意はいいね。硫黄もあるね。紅い目玉が出たら硫黄の臭いをさせるんだ。

ニーナに、

トレープレフ さ、いっておいで。アガってる？

ニーナ とっても。だって、あなたのママ……平気よ。こわくなんかない。でも、トリゴーリンが来てるでしょう。あの人の前でお芝居するのは、あたしこわいの、恥ずかしいの。有名な作家ですもの。若い方？

トレープレフ うん。

ニーナ あの人の小説、素晴らしいわ。

トレープレフ 知らないな。トルストイやゾラが出たあとにトリゴーリンを読む気にはね。さ、準備して。

ニーナ あの、

トレープレフ なに？

ニーナ あなたの戯曲、なんだか演りにくいの。生きた人間がいらないもの。トレープレフ 生きた人間か……人間を描くには、あるがままでもいけない、かくあるべき姿でもないけない。自由な空想にあらわれる形でなくちゃ。

ニーナ でもあなたの戯曲は動きが少なくて、読むだけなんだから。戯曲って、やっぱり恋愛がなくちゃいけないとあたしは思うわ。

ニーナ、トレープレフの腕から離れる。

トレープレフ ……恋愛、ね。

ひとりになったトレープレフはそっとトリゴーリンの本を取り出す。
バラバラとめくり、

トレープレフ お母さんのことは好きだ。でもあの人の生活はなっちゃいない。酷すぎる。しょっちゅうあの小説家とベタベタして浮名を流してる。僕だって人並みのエゴイズムがむらむら起きる。悔しくなる。お母さんが有名な女優じゃなくて普通の女でいてくれたなら、僕はもう少し幸せだったのに。お母さんの客間には天下のお歴々がずらりと顔を並べる。役者とか文士とか。そのなか

で僕だけが名もない雑魚だ。同席を許してもらえるのもあの人の息子だから。僕は一体誰だ？　どこの何者だ？　才能もなし、一文だって金はない。

本を、乱暴に投げつけた。

トレープレフ ……お母さんは僕が嫌いだ。当たり前か。あの人は生きたい恋がしたい派手な服が着たい。なのに僕がもう25にもなるから嫌でも自分の年を思い出す。僕がいなけりや32歳でいられるのに、ぼくがいるととたんに43歳になっちまう。だから僕が苦手なんだ。僕の脚本も見ないうちから目の敵にして。あの人は僕が劇場否定論者だということも知ってる。あの人は劇場が大好きで、自分が人類だの神聖な芸術だのに奉仕しているつもりなんだ。でも僕に言わせると劇場ってやつは型にはまった因習にすぎない。幕が上がると、晩がたの照明に照らされた三方壁の部屋の中で、神聖な芸術の申し子みたいな名優たちが、人間の食ったり飲んだり惚れたり歩いたり、背広を着たりする有様を演じてみせる。だから新しい形式が必要なんですよ。

角笛の音。

トレープレフ さあ、皆さん、始まります。静粛にねがいます。では、まず私から。おお、なんじら、年ふりし由緒ある影たちよ。夜ともなれば、この湖の上をさまよう影たちよ。わたしを寝入らせてくれ。そして、二十万年ののちの有様を、夢に見させてくれ！

トレープレフは大きく両手を広げた。

湖のような水色の水面が揺れる。

と、するりと水色の水面が床に落ちる。

そこはまた赤い丸テーブル。

テーブルの上には、ビールの空き缶がゴロリ。

ニーナ1以外のニーナがビールを飲みながら爆笑している。

ピタリと、その笑いが止まると、

ニーナたち、どっと疲れた顔になる。

ニーナ1 だからヤだって言ったんだよ……

ニーナ うん……

ニーナ1 始まってすぐさまトレープレフご乱心だよ……

ニーナ う……うん……

ニーナ1 アルカージナの高笑いじゃあ……普通さあ上演中にあんな笑う？

突然、ニーナ2が爆笑。

ニーナ2 やだ、なにこれ、気持ち悪い、卵の匂いがする。卵、卵、誰か食べてる？ 卵、ウケる。効果とか使っちゃってウチのぼっちゃん。

ニーナ1 かと思ったら今度はいきなり、

突然、ニーナ3が高いびき。

がくんと体が動いて、

ニーナ3 はっ……階段踏み外す夢見ちゃった……

トレープレフ 芝居はやめだ！ 沢山だ！ 幕をおろせ！

ニーナ1 んなの、ハナから分かってたじゃん……

トレープレフ 沢山です！ 幕だ！ 幕をおろせたら！ 幕だ！ 失礼しました。芝居を書いたり、上演したりするのは、少数の選ばれた人たちのするこ

とだということ、つい忘れていたもんで。僕が、いや、僕なんか……

肩を震わせたトレープレフは闇の中に消える。

ニーナ1は、ぐいっとビールを飲み干す。

ニーナ1 バカだよ、トレープレフ。やめときやいいのに、ホント、バカ。あんなに泣いちちゃってさ、あの後ろ姿………

ニーナ ニーナ……

ニーナ1 いくらナンでも……母親にあんなにコケにされたんじゃ……あれじゃ……可哀想すぎる……

ニーナ3 ニーナってば、あんなにトレープレフのこと文句言ってたのに、

ニーナ1 そりや言うよ！ だって、だって上手くいって欲しいじゃんよ。

ニーナ ニーナ……私の中のアなたが一番、トレープレフのこと想ってるのね……この気持ちは、そうか、ニーナ、あなたのものだったのね。

ニーナ3 なのに悪態ついちゃって、素直じゃないっていうか。

ニーナ2 好きだ、バカっていう恋愛漫画を地でいってるのね。

ニーナ3 好きな女子のことをいじめちゃうって男子と同じ心理。

ニーナ1 うるさい、ほっといて！ 私は一途なんだよ。

ニーナ そうだよ、トレープレフを支えて生きるっていう考え方だってあるかも……ちよっ……！ ニーナ、何やってるの！？

ニーナ1 呪いだよ、アルカージナに呪いかけてやってんだ。

ニーナ よしなさい。人を呪わば穴ふたつよ。それ巡り巡って私に返ってくるんだから！

ニーナ3 まああの女はメスだね、メス。息子よりも恋人優先ってところが、私も気に食わないけど、己の人生賭けて呪うような相手じゃないって。

ニーナ2 だったらあのメスっぷりは見習わなきゃだわ。あれが女優として成功する秘訣なのね。

ニーナたち、ニーナ2をじっと見る。

ニーナ2 え？ 何？

ニーナ1 ……お前か。アルカージナにやたらおべっか使ったのは……！

ニーナ2 えだって、私のこと褒めてくれたし。

ニーナ1 あんなババアに口先だけで褒められて、あんな嬉しい？

ニーナ2 素晴らしい器量と声って言ったのよ。田舎に引っ込んでるなって。

女優になるべきだって。義務だって。

ニーナ1 あんたたってホント、オメデタイんだから。あんなにチヤホヤされてる女が本気で自分以外の人間を褒めると思う？

ニーナ2 人の意見は素直に聞くもんよ、ニーナ。

ニーナ1 わたしだっておいとまするの、どんなに辛いかわかりませんわ、とか気持ち悪い声出してさ。

ニーナ ああっ！ 私が思わず言っちゃったあれば、ニーナ、あんたの気持ちだったってことね！？

ニーナ2 いーじゃない。向こうは大女優なんでもん。目をかけてもらえるし。

ニーナ1 ニーナ、あんたってホントミーハーだね。

ニーナ2 純粹に憧れちゃいけないワケ？

ニーナ1 あんな女のどこに憧れる？ 若作りだしケチだし色ボケだし育児放棄だし。

ニーナ2 成功してる大女優ってだけで憧れちゃイケない？ それにアルカージナさんの言うことは一理あるもん。

ニーナ2、さっとアルカージナの真似をして、

ニーナ2 あの子はこれはほんの茶番劇でと自分で前触れしていましたよ。

だからこっちも、茶番のつもりでいたんだけど。ところが、いざ蓋をあけてみたら、大層な力作だったわけなのね。芸術に新形式をもたらそうとか、大した意気込みじゃありませんか。わたしに言わせれば、あんなもの、新形式でもなんでもありやしない。ただの根性まがりなだけですよ」ね？ その通りじゃない？ よくよく考えてみたらトレープレフってさ、テスト前に、あー、全然勉強してないよ、うわー、どうしようーとか言っておきながらいい点取るタイプだと思わない？ それが今回は上手いかなかったってカンジ。

ニーナ1 違うね、ニーナ。あんたついこの間までトレープレフに肩入れしてたのに、今日、アルカージナをヨイショしたほうがいいって判断したんだろ？

ニーナ2 んー、そうかも。私、勝ち馬に乗り換えるの得意だから。

ニーナ1 ああ、やだ、自分のこういう打算的なところ。

ニーナ2 大女優にくっついていたら何かイイことあるかもしれないよ？

ニーナ1 あんたとことん卑しいな。

ニーナ2 あんたみたいにヒネくれてやせ我慢が美德だなんて思っていないだよ。私、軽やかなの。

ニーナ1 ああ、あんたが私かと思うとムカつく。

ニーナ2 やだあ、意見が合う。

ニーナ うわああん！ 軟派と硬派が戦ってる……！ ねえ、自分同士で仲たがいがいしないでよ。力を合わせなきゃ、このままじゃ分裂病になっちゃうじゃない！

ニーナ3 冷静に考えると私たちがもう充分、病気よ、ニーナ。

ニーナ もう、どこまで冷静なのよ、ニーナは！

ニーナ3 冷静で、いたかったんだけど、ね……

ニーナたち、ニーナ3を見る。

ニーナたち え？

ニーナ3 ええ……お察しの通り、そういうわけなんだよね……

ニーナ1 え、ごめん。なんも察せてないけど。

ニーナ3 ニーナ……あなたたち……あの人を見て、何にも感じなかった？

ニーナ はっ……！

ニーナ2 どうしたの？ ニーナ。

ニーナ もしかして……

ニーナ1 何、ニーナ、黙ってないでさっさと言いな！

ニーナ あの瞬間よ。ね、あの瞬間でしょ、ニーナ！

ニーナ2 どの瞬間！？

ニーナ あれよ、あれ！ 芝居がおじちゃんになって、その後、ほら、アルカージナさんが、さ、ご紹介しましょう……こちらは……

ニーナの脳裏に、ふっとその姿が浮かぶ。

ニーナ トリゴリーンさん……

ニーナ3 ドキッ！

ニーナ1 今、ドキっつった！？

ニーナ3 そしてヒューン、ドンッ！これか！？ これなのねっ！

ニーナ2 つまり何？ つまりはどーゆー、

ニーナ つまりはっ！ ドキヒューンドン、そしてこの顔！

ニーナ1 ニヤけてる……？

ニーナ ニーナは落ちちゃったってことよ！

ニーナ1・2 どこに落ちた？

ニーナ3 恋に！

脳裏に浮かんだトリゴリーンが手を差し出す。

ニーナ3はその手を取ろうと歩き出す。

思わずニーナ3を止めにかかるニーナたち。

ニーナ1 ちょちょちょっ……！

ニーナ3 止めないで、ていうかもう止まらない、止められないよ。だって恋の超特急列車はもう走り出しました！

ニーナ ああっ！？ あの瞬間のフワフワした幸せなカンジは恋だったってことお！？

ニーナ1 トレップレフはどうすんだっ！？

ニーナ2 しかもアルカージナさんの恋人だって、超ややこしい関係になりそうだし！

ニーナ3 聞こえない。

ニーナ 冷静が持ち味なんじゃないの、ニーナ！

ニーナ3 そうだよ、冷静で唯一知的な私が、初めてよ、こんなの。恋か、恋ねこれが、本当の恋の衝撃。幸せの始まり……

ニーナ3、脳裏のトリゴリーンの手を取った。

ニーナ 幸せの始まり？ 本当に？ 不幸せの始まりだったらどうする？

ニーナたち、

ニーナをじっと見つめた。

まるで時が止まったように、じっと、黙って見つめる。

ニーナ 考えてるのよ。私なんかのちっぽけな頭でも。どこに行けばいいか、何をすればいいか、何を選べば……あ……

ニーナ、ふと空を見上げた。

ニーナ ……かもめ……

空いっぱい、かもめ。

ニーナ ママ……

うるさいほどに、かもめが鳴いている。

ニーナ 聞いてよ、ママ……

鳴いている。

ニーナ 聞こえないよね、ママ。

鳴いている。

ニーナ 頭の中がうるさいの、ママ。

鳴いている。

ニーナ 憧れを追いかけろってうるさいの。恋に走れってうるさいの。一途に
生きろって、うるさい……

かもめが、空を覆い尽くすほどに。うるさい。

ニーナ ああ……何だったっけ……どうしたかったんだっけ……ニーナ……わた
し……わたしはかもめ……いいえ、わたしは……

一発の銃声が鳴り響く。

ニーナ !

我にかえる、ニーナ。

トレープレフ、猟銃と鷗の死骸を持つ。

トレープレフと対峙するのは、オリジナルのニーナ。
しかし、答える声は、ニーナ1、2、3の声。
答える声はその時々で変わる。
オリジナルニーナの、まるでアテレコのように。

トレープレフ ひとりっきりなの？

ニーナ ええ、そう。

トレープレフ、鷗の死骸をニーナの足元に投げる。

ニーナ1 どういうこと、これ？

トレープレフ 今日僕は、この鷗を殺すような下劣な真似をした。

ニーナ ……ええ？

トレープレフ あなたの足元に捧げます。

ニーナ2 え？

トレープレフ こんなふうに、僕自身を殺すんです。

ニーナ3 ええ？

ニーナにはさっぱりなんのことが分からない。
だからトレープレフはもう一度繰り返す。

トレープレフ 今日僕は、この鷗を殺すような下劣な真似をした。あなたの足元に捧げます。こんなふうに、僕自身を殺すんです。

ニーナ ……えー……っど……すっかり……

ニーナ1 人が、違ったみたい。

トレープレフ ええ、あなたが別人みたいになって以来。あなたの態度は、がらり変ってしまいましたね。目つきまで冷たくなって、僕がいるときも窮屈そうだ。

ニーナ3 あなたは怒りっぽくなって、何か言うにもはっきりしない、へんな象徴みたいなものを使うのね。

ニーナ1 この鷗にしたって、何かの象徴みたいだけれど、

ニーナ2 ごめんなさい、わたしわからないの。わたし単純すぎるもんだから、あなたの考えがわからないの。

トレープレフ ことの起こりはね、僕の脚本があんなぶざまな羽目になった、あの晩からなんです。女というものは、失敗を赦したりしませんからね。

ニーナはものすごく小声でつぶやく。

ニーナ2 だってあれつまらないんだもん。

それがトレープレフに聞こえたかどうかはわからない。

トレープレフ あなたが冷たくなったのが僕には恐ろしい。あなたは、あの脚本が気に食わない、それで僕のインスピレーションを見くびって、そのへんじょうようよしている平凡な奴らと一緒にしてるんだ……

ニーナ3 あ。

トレープレフ 僕は脳みそに釘をぶちこまれたような気持ちだ。そんなもの、僕の血をまるで蛇みたいに吸って吸って吸い尽くす自尊心もろとも、呪われるがいいんだって、ほらまるで聞いちゃいないし！

ニーナは別のものに気を取られる。

トレープレフ そうら、本物の天才がやってきた。歩きつぷりまでハムレットだ。やっぱり本を持ってね。言葉、ことば、ことば「か……まだあの太陽がそばへこないうちから、あなたはもうにっこりして、目つきまであの光でトロンとしてしまった。邪魔はしませんよ。

トレープレフが去って、代わりにトリゴーリンがやってくる。

ニーナ3 御機嫌よう……トリゴーリンさん。

メモ帳に書き込んでいる最中のトリゴーリンに声をかける。

トリゴーリン 御機嫌よう。

ニーナ3 あの、

トリゴーリン はい？

ニーナ2 有名って、どんな気がするものかしら。

トリゴーリン え？

ニーナ2 有名な立派な作家がどんな気持ちでいるものか知りたいわ。ご自分が有名だということを、どうお感じになりました？

トリゴーリン どうって？

ニーナ2 自分のことが新聞に出ているのをご覧になったりして、トリゴーリン 褒められれば気分がいいし、やっつけられると二日は不機嫌を感じますね。

ニーナ2 素晴らしい世界だわ。人の運命ってさまざまなのね。退屈な、人目につかないみんな似たより寄ったりの不幸せな人たちがいるかと思うと、あなたのように、百万人にひとりの、面白い、明るい、意義に満ちた生活を送るめぐり合わせの人もある。あなたはお幸せですわ。

トリゴーリン、メモを書くのをやめてニーナをじっと見る。

トリゴーリン わたしが？

ニーナ2 あなたの生活は、すてきな生活だわ。

トリゴーリン ……あなたは世間で言う「大の痛い肉刺」をぐいと踏みつけた。

ニーナ3 え？

トリゴーリン しばらくお話をしましょうか。

トリゴーリンが座り、ニーナにも座るように促す。

トリゴーリン さてと。強迫観念というものがありますね。夜も昼も、一つの考えがしつこくとっついて離れない。わたしの場合、それは、書かなくちゃならん、書かなくちゃ、書かなくちゃ、というやつです。やっと小説をひとつ書

き上げたかと思うと、すぐに次のに掛からなければならん、それから三つ目、四つ目、のべつ書きどおしで、他に打っ手が無い。そのどこが素晴らしいか、明るいか、野蛮極まる生活ですよ。今こうしてあなたとお喋りをして興奮している、ところがその一方、書きかけの小説が向こうで待っている。自分の命を、ぼりぼり食っているような気持ちです。わたしがやっと物を書き出したところ、まだ若くて、正気にあふれていた時代はどうかというと、これまたわたしの文筆生活は、ただもう苦しみの連続でしたよ。駆け出しの文士というものは、こゝとに不遇な時代がそうです、間の抜けた、不細工な余計者みたい。神経ばかりやたらに尖らせて、ただもう文学や美術に携わっている人たちのまわりを、ふらふらうろつき回らずにはいられない。認めてもらえず、誰の目にもはいらず、しかもこつちから相手の眼を、まともにくいと見る勇氣もなく。一文なしのバクチきちがいといったざまです。

ニーナ3 でも、創作の筆がすすんでいる時は、崇高な幸福の瞬間をお味わいになりませんか？

トリゴーリン 書いているうちは愉快です。だがいざ刷り上がってしまうと、もう我慢がならない。しくじった、いっそ書かないほうがよかったのだと、むしろくしゃやして、気が滅入る。ところが世間はなるほど、うまい、才筆だな」

「うまいが、トルストイには及びもつかんね」よく書ける。しかしツルゲーネフの『父と子』のほうの上だよ」他にないもありやしない。死んでしまうと知り合いの連中が墓のそばを通りかかってこう言うでしょう。「ここにトリゴーリンが眠っている。いい作家だったが、ツルゲーネフには敵わなかったね」

ニーナ あなたは成功に甘えていらっしやるんだわ。

トリゴーリン どんな成功？ わたしは作家としての自分が好きじゃない。わたしは、ほら、この水が好きだ。木立や空が好きだ。情熱を書かずにはいられない欲望を呼び起こす。ところがわたしは単なる風景画家だけじゃなくて、その上に社会人でもあるわけだ。祖国を、民衆を愛する。自分が作家であるならば、民衆やその苦悩やその将来について語り、科学や、人間の権利や、その他いろんなことについても語る義務がある、と感じるわけです。そこでわたしは何もかも喋ろうと焦る。焦る。焦る。焦る。焦る。焦る。焦る。で、自分にできるのは、自然描写だけだ。ほかのことにかけてはニセ物だ、骨の髄までニセ物だ。

ニーナ3 たとえご自分に不満だろうとなんだらうと、他の人にとってはあなたは偉大で立派な方よ。

ニーナ もしわたしが、あなたみたいな作家だったら、自分の全生命を民衆に捧げてしまうわ。女流作家とか女優とか、そんな幸福な身分になれるものなら、わたしは周囲の者に憎まれても、貧乏しても、幻滅しても、りっぱに堪えてみ

せますわ。屋根裏住まいをして、黒パンばかりかじって、自分への不満だの、未熟さの意識だのに悩んだってかまわない。
ニーナ2 その代わり、わたしは要求するのよ、名声を、ほんとうの、われかえるような名声を。

「トリゴーリン」

と、呼ばれたような気がした。

ニーナ3 アルカージナさんが呼んでるわ。

トリゴーリン きっと荷造りでしょう。もうすぐ発つ

トリゴーリンが席を立とうとする、

と、

ニーナは思わずトリゴーリンの服を掴んだ。

キュンテクのように、袖を掴む。

ニーナ3 向こう岸に、家と庭が見えるでしょう？

トリゴーリン ……ええ。

ニーナ あれが亡くなった母の屋敷です。わたし、あすこで生まれたの。

かもめが鳴いた。

トリゴーリン ここは素晴らしい。

ニーナ それからずっと、この湖のそばで暮らしているものだから、どんな小さな島でもみんな知っていますわ。

トリゴーリン、足元の鷗に目を止める。

トリゴーリン なんです、これは。

ニーナ1 かもめよ。トレープレフさんが射ったの。

トリゴーリン きれいな鳥だな……

と、言ったのは、鷗になのか、ニーナになのか。

また、呼ばれたような気がした。

トリゴーリンはまた席を立とうとするが、

再びニーナに服を掴まれる。

ニーナ3 なにを書いてらっしゃるの？

トリゴーリン 題材が浮かんだものでね。ほんの短編ですがね。

ニーナ3 題材？

トリゴーリン 湖のほとりに、ちょうどあなたみたいな若い娘が、子供の時から住んでいる。鷗のように湖が好きで、鷗のように幸福で自由だ。

ニーナ3 鷗のように湖が好きで、鷗のように幸福で自由……

トリゴーリン とところが、ふとやってきた男が、その娘を見て、退屈まぎれに、娘を破滅させてしまう。ほら、この鷗のようにね。

かもめが鳴いた。

ニーナは空を見上げる。

そんなニーナの手に、

トリゴーリンがそっと触れた。

ニーナ驚いてトリゴーリンを見る。

見つめあった。

瞬間、

再び、一発の銃声。

何か、食器が落ちるような音。

慌ただしい空気と騒音。

ニーナとトリゴーリンはその銃声のほうを見た。

ふたりはもう一度互いを見てから、

屋敷のほうへと走りだす。

丸い赤いテーブルにニーナたちが緊張した顔で座る。

ニーナ1 あんたのせいだ。

ニーナ3 違うわよ、トレープレフに思いつきり冷たくしたのはニーナのほう。

ニーナ2 トリゴーリンにベタベタしてたのはニーナじゃない。

ニーナ1 アバズレ。

ニーナ3 ふるっ。

ニーナ1 ピストルでバチンだよ！

ニーナ2 でも狂言自殺だし、あれ。

ニーナ1 私たちが追い詰めたんだよ、自覚ある？

ニーナ2 トレープレフは自分で自分を追い詰めただけ。私悪くないもん。

ニーナ3 今度はトリゴーリンさんに決闘を申し込むとか言ってるみたいだよ。

ニーナ あー頭痛い。

ニーナ1 頭が痛いのはトレープレフのほう。

ニーナ2 男のメンヘラってめんどい。

ニーナ1 それにナンなの、あの黒い女。

ニーナ マーシャ？

ニーナ1 湿度高いよ。じっとりした目でこっち見やがって。

ニーナ2 トレープレフのことが好きなんだからしようがないし。

ニーナ3 いっそあの二人がくっついたら丸くおさまらないかな。

ニーナ メドヴェージェンコセンセと結婚するんだって。

ニーナ2 わー、ふっー。

ドン！

と、ニーナ3がテーブルを激しく叩いた。

ニーナたち ……なに？

ニーナ3 行っちゃう……トレープレフの自殺未遂のせい……トリゴーリンさんが……

ニーナ2 アルカージナさんが決めたのよ。嫉妬でとち狂ってるから、とにかくトリゴーリンをこっから連れ出したほうがいいのだから。

ニーナ1 うん、それがいいよね……

ニーナ3 よくない！ よくないよくないよくない！ ヤダヤダ絶対絶対ヤダ。

ニーナ1 でもどうしようもないじゃん。

ニーナ3 そばにいたい。ずっとずっとそばにいたい。あの人のトランクの中でもいいから近くにいたい！

ニーナ2 いろんな意味で重たいわよ、ニーナ。

ニーナ3 あの人のそばにいられるなら別に女優にならなくなったってかまわない。
ニーナ2 あーそうね。作家のトリゴリーンの妻になったらそれだけでラグジュアリーだもんね。その話ノット。

ニーナ1 ちよっと、傷ついたトレープレフほっておくわけ？

ニーナ3 こんなに惹かれる人になんてもうきっと一生出会えない。運命なんてヌルいもんじゃなくてこれは宿命だよ。

ニーナ ニーナ。話がへんよ、なんで女優にならなくてもいいの、それが私の夢なのに、

ニーナ3 夢？ 本当にそれが夢だったっけ？

ニーナ え、だって、

ニーナ3 どうせあんたが言う夢って、新聞に載ったり、インタビュー受けたり、いいホテルに泊まったり、そんなもんよ？

ニーナ ちが、

ニーナ3 あんたの言う夢って、ぺらっぺらなのよ、うっすいんだよ。

ニーナ2 だって生まれたからには誰だって特別な人間になりたいもんじゃない。私は要求するわよ、割れ返るような名声を。

ニーナ3 みんな、くだらないことよ。

ニーナ2 それマーシャのセリフだし。

ニーナ1 待って、整理しよう、落ち着いてさ。トリゴリーンよりもやっぱトレープレフのほうが、なんか私と近い感じがするんだ。

ニーナ2 トレープレフと！？ やだっ、才能もないのに妬んでばかりの小物と近いなんてやだあ。

ニーナ1 才能はないことはないって。トリゴリーンが売れてるのはただ運が良かっただけじゃん。

ニーナ2 運も才能のうち。

ニーナ3 ていうか才能ってなに？ そういうのもう興味ない、今は恋の話。

ニーナ1 トレープレフとならふたりで寄り添っていけると思う。だって誰も私のことなんて見てない。トレープレフだけだよ。

ニーナ3 そういうのね、傷を舐め合おうって言うのよ。

ニーナ1 だってトリゴリーンとじゃ釣り合わなくない？

ニーナ3 なにバランスとって人生平凡にしようとしてんのよ！？

ニーナ1 アルカージナの恋人だし、

ニーナ2 それを言うならトレープレフの一番はたぶんママのアルカージナだ
と思うよ。超マザコン。

ニーナ1 そんなこと分かってる。私のこと好きだ好きだって言うくせにママ
に認められなくてたまらないことくらい分かってるよ。

ニーナ3 脈ありなんだって、トリゴーリンさん、完全にこっちになびいてる。

ニーナ1 田舎娘が珍しいだけじゃん。熟女のアルカージナと私だよ？ どこ
に共通点がある？ トリゴーリンの好みの物差しがなんも分らないじゃんよ。

ニーナ2 あ、これもある意味新形式ね。

ニーナ1 フランス料理のフルコースばっか食べてた人が、鮭茶漬け食ってほ
っこりする、一時の気の迷いだよ。どうせ捨てられるよ。

ニーナ3 気の迷いで結構、正気じゃ恋なんてやってらんない。

ニーナ1 舞い上がってる時はいいよ。でも毎日はずーっと続くんだ。一生恋
に落ちてられっか？ 恋やっててもトイレットペーパー買いに行かなきゃなんな
いんだよ。トレープレフなら冷やご飯でも怒らないって。

ニーナ2 だからラグジュアリーな生活にすればずっと恋に夢見てられるじゃ
ない。

ニーナ3 とにかく可能性なんだって。トリゴーリンさんは夢と恋の可能性が
溢れてる。今、選ばなきゃずっとこの田舎で私は年取るだけなんだから。

ニーナ1 でもなんか違うって思ってたんだよ、私は、トリゴーリンとはなんか
違うって、だって、同じ匂いがしない。

ニーナ2 何が？

ニーナ1 魂が、おんなじ匂いがしない。

ニーナ2 そーゆー意味分かんないこと言わないで。

ニーナ3 違う匂いがするから惹かれるんじゃない。

かもめが鳴いた。

時間が、永遠のようにゆっくり流れる。

ニーナは空を見上げた。

ゆっくりと飛ぶ、かもめを見た。

ニーナ わたしの中には、アレクサンドル大王の魂もある。シーザーのも、シ
ェイクスピアのも、ナポレオンのも、最後に生き残った蛭のたましいも、のこ
らずあるのだ。わたしの中には、人間の意識が、動物の本能と溶け合っている。
わたしは、何もかも残らずみんな、覚えている。わたしは一つ一つの生活を、

また新しく生き直している。わたしは孤独だ。

ニーナたちは時間が止まったように、
ピクリとも動かない。

オリジナルニーナだけの時間。

ニーナ わたしは、孤独だ。

部屋の扉のドアノブにそっと手をかける。

ニーナ パパ。大丈夫よ。ボヘミアの巣窟には行かないわ。普通が一番だものね。私なんかが女優になんてなれるわけがないし。うん、分かってる。

ニーナ こう言えば安心でしょ。

ニーナはドアからそっと離れる。

ニーナ ねえ。パパ。

ニーナ パパには絶対、直接言わないけど。

ニーナ 私はママがいなくなってからきつと孤独よ。

ニーナ だから頭の中がこんなになるさいの。

ニーナ ママなら、なんて言う？

ニーナ でも分かんないわ。

ニーナ もうママ、いないから。

ニーナ 永遠にいないから。

ニーナ 永遠の物質。

ニーナ 永遠の原子。

ニーナ お前のなかにも、原子の入れ替えをしている。お前は流転する。宇宙のなかで、不変のものがあればそれはただ霊魂だけだ。

ニーナ わたしの中に全てがあるなら。

ニーナ ママ、ここにいますか？

ニーナ 答えられる？

ニーナ、テーブルの上のお菓子をポリッと食べた。
豆をひとつ。
拾いあげる。

ニーナ 豆はひとつ。

テーブルの上には、豆がいっぱい。

ニーナ ひとつしか選べない。どれを選んでもいいのにね。こんなにいっぱい、ぼろぼろと、テーブルから豆がこぼれる。

ニーナ ひとつしか、選べない。

ニーナ、こぼれ落ちようとする豆を、思わず両手で全て抱えた。

ニーナ 誰か、

ニーナ こうしたらと言ってくれればいいんだけど。

ニーナ 女優になるのか、なるまいかって。

ニーナ 1 決めた？

ニーナ 決められない。

ニーナ2 迷ってない？

ニーナ 迷ってる。

ニーナ3 振り返らない？

ニーナ 目の前が、真っ暗。

そこにある暗闇。

オリジナルニーナ、暗闇へ手を伸ばす。

尻っ放り腰で、危なげに手を暗闇へ。

探る指先。

ニーナは暗闇のなかにひとり。

ニーナ 人生を描くには……

ニーナ 私、単純すぎるもんだから……

ニーナ 考えなくちゃ。考えなくちゃね。

ニーナ ああ……でも、

ニーナ まとまらないまとまらないまと……

ふと空を見上げる。

ニーナ かもめは、

ニーナ 考えるのかしら。

ニーナ 占って。

ニーナ 考えられないから。

ニーナ 天に任せて。

ニーナ、目を閉じた。

ニーナ 手の中にある豆ひとつぶ。

手で探ってひとつぶ取る。

ゆっくり目を開ける。

手の中にある豆を見る。

顔をあげると、

そこにトリゴーリンがいる。

ニーナ トリゴーリンさん、わたしきっぱり決心しました。賽は投げられたんです。わたし舞台上に立ちます。父のところを出て、一切を捨てて、新しい生活を始めます。わたしも、あなたと同じに、あちらでお目にかかりましょう。

トリゴーリン、辺りの様子を伺ってひそやかに。

トリゴーリン 宿は、「スラヴヤンスキイ・バザール」になさい。そしてすぐに僕に知らせて。今は急ぐから。

と、行こうとするが、

ニーナ もう一分だけ。

ニーナはまた袖を掴んだ。

トリゴーリン 僕はまた見られるのだ。天使のよう清らかな表情を。

ひそやかに、二人はキスをかわす。

ニーナ 1 旅行鞆。

ニーナ 2 新しい靴。

ニーナ 3 テーブルクロス。

ニーナ 1 食卓。

ニーナ 2 花。

ニーナ 3 卵。

ニーナ たまご。

ニーナ 1 ランプ。

ニーナ 2 カーテン。

ニーナ 3 ゴミ箱。

ニーナ ごみ。

ニーナ 1 食器。

ニーナ 2 ベッド。

ニーナ 3 洗濯物。

ニーナ 汚れもの。

ニーナ 1 晴れた日。

ニーナ 2 風の日。

ニーナ 3 雨の日。

ニーナ 日。

ニーナ 1 日。

ニーナ 2 日。

ニーナ 3 日。

ニーナ ひび。

ニーナ 1 ひび。

ニーナ 2 ひび。

ニーナ 3 ひび。

ニーナ ヒビ、われ。

ニーナ、振り返る。

トリゴーリンはいない。

ニーナ ひび……

かもめが鳴いたような気がして空を見た。
立ち尽くす。

ニーナ ……進めない。

立ち尽くす。

ニーナ ……どうやって、歩くんだったっけ？

力が抜ける。

それをニーナ1が助ける。

しかし上手く歩けない。

ニーナ 足を、前に……どうやって？

また崩れそうになるのをニーナ2も助ける。

ニーナ 手は？ 手は、どうやって……

また崩れそうになるのをニーナ3も加わって助ける。

ニーナ 進まなきや。

しかし上手く歩けない。

ニーナ 進まなきや。

ニーナ 進まなきや。

ニーナ 進まなきや。

ニーナのその声はいつしか絶叫になる。

暴風雨。

激しく、雨が窓を叩く。

トレープレフ それはね、長い話ですよ。

雷鳴。ぴかりと。

稲光に照らされるのは、トレープレフではなく、

ニーナたち。

青ざめて。

疲れ切って。

ただ黙って座っている。

トレープレフ あの人には家出をして、トリゴーリンといっしょになりました。

ニーナのうちのひとりが、ペンを取り出した。

また別のニーナが、紙をテーブルに置く。

トレープレフ 赤ん坊ができる。その子が死ぬ。

ニーナたちは、ペンを走らせる。

トレープレフ トリゴーリンはあの人に飽きて、もとのキズナへ帰ってゆく。

順番に、何かを書く。

無言で。

トレープレフ 僕の耳にはいったところから判断すると、ニーナの私生活は全然失敗でしたよ。

ニーナ3が、ふと席を立つ。

しかし誰もニーナ3を見ない。

ニーナ3は姿を消すともう戻っては来ない。

トレープレフ 舞台のほうはどうやらもっとひどいらしい。大きな役ばかり引き受けていましたが、演技はがさつで、味もそっけもなく、やたらに吠え立てる、大仰な見得を切る。時たま、なかなか巧い悲鳴をあげたり、上手な死に方を見せたりしましたが、それも瞬間だけのことでね。

ニーナ2が、ふと席を立つ。

しかし誰もニーナ2を見ない。

ニーナ2は姿を消すともう戻っては来ない。

トレープレフ 僕のほうじゃあの人の顔を見ているんですが、向こうが会いたがらず、僕も無理には会おうとはしませんでした。やがて、手紙が何通かきました。これは並大抵の不具合せじやないなと感じるほど、一行一行、病的な神経が張り詰めていました。ちよつと変なんです。何しろ署名「かもめ」というのですからね。自分は「かもめ」だと、のべつに書いてある。

ニーナ1が、ふと席を立つ。

しかし誰もニーナ1を見ない。

ニーナ1は姿を消すともう戻っては来ない。

トレープレフ 彼女は今この町に来ているのに、彼女の親父さんも継母もてんで知らん顔で、それどころか見張りを置いて屋敷に一步も近づけないようにしてる。

オリジナルニーナだけが残り、

一心不乱にペンを走らせる。

再び雷鳴。

稲光。

ぴかりと。

トレープレフ ……すごい天気。これでもう二昼夜だ。

椅子に座ってペンを取る。

トレープレフ ……書かなくちゃ……

トレープレフ 僕が小説家になるなんて、誰ひとり夢にも思わなかった。

トレープレフ 書かなくちや。書かなくちや。

トレープレフ 今じゃありがたいことに雑誌からお金がくるようになったのに

トレープレフ お母さんは僕の小説を一度も読みはしない……

トレープレフ そんなことより書かなくちや。書かなくちや。書かなくちや。

机の上の新聞を手取る。

トレープレフ ……ひどく叩かれてる。

またペンを取る。

トレープレフ でも書かなくちや。書かなくちや書かなくちや書かなくちや書かなくちや書かなくちや……新形式、書かなくちや新形式書かなくちや新形式……

書きなぐる。

トレープレフ 今じゃ自分が古い型へ落ち込んでいってる気がする……

読み上げてみる。

トレープレフ 塀のポスターに曰く、青白い顔が、黒い髪の毛にふちどられて……なっっちゃいない。月夜の描写が長ったらしく凝りすぎてる。トリゴリンはちゃんと手がきまってるから、楽なもんだろ。あいつなら、土手の上に割れた瓶のくびがきらきらして、水車の影が黒く落ちて……それでもう月夜ができあがってしまう。なのに俺は、ふるえがちの光だとか、静かな星のまたたきだとか、しんとした匂やかな空気のかなかに消えゆくピアノの遠音だとか、最悪だ。なっっちゃいない！

ペンを放り投げた。
引き出しを開ける。
ペンの代わりに、拳銃に触れた。

トレープレフ 本当は、だんだんわかりかけてきてる。問題は形式が古いの新しいのということじゃなくて、形式なんか念頭におかずに人間が書く、それなんだ。魂のなかから自由に流れ出すからこそ書く……

トレープレフ、何かに気がついて拳銃を隠す。

トレープレフ 誰だ、そこにいるのは？

オリジナルニーナがそろりと姿を表す。

トレープレフ ニーナ。君か、君だったのか。

ニーナ 誰かいるわ。

トレープレフ 誰もいやしない。

ニーナ ドアの錠をおろして。

トレープレフ 誰も来やしない。

ニーナ 知ってるわ、アルカージナさんがあの人を連れていらしたこと。入ってくるど困るわ。だから閉めて。

トレープレフ もう心配しないで。誰も来ないから。

トレープレフ、じっとニーナを見つめる。

ニーナ わたし、ひどく変わった？

トレープレフ だいぶ痩せて、眼が大きくなったな。僕は知ってる。君がもう一週間ちかく、この土地にいること。どうしてもっと早く来なかったの？

ニーナ あなたがわたしを憎んでらっしゃるだろうと、それが怖かったから。ここへ着いたその日から、わたしは、湖のへんを歩いていたの。お宅の近くにもたびたび来たけれどはいる勇気がなかったわ。毎晩同じ夢を見るのよ。あなたがわたしを見ているくせに、わたしとは気がつかないの。

トレープレフが怯えるニーナの手をとる。

ニーナ ……あったかい。

嵐の音だけがする。

二人はじっとその音を聞いている。

まるで避難民のように。

ニーナ　　こんな晩に、うちの屋根の下にいる人は仕合せだ、暖かい片隅を持つ人は」わたしは、かもめ……いいえ、それじゃない。何を言ってたんだっけ。

そう、ツルゲーネフよ。　　こんな晩に、うちの屋根の下にいる人は仕合せだ、暖かい片隅を持つ人は」

トレープレフ　ニーナ。

ニーナ　　主よ、願わくば、すべての寄る辺なき漂泊びとを助けたまえ」

トレープレフ　ニーナ。

思わずニーナは泣き崩れる。

ニーナ　　いいの、なんでもないの。これで楽になるわ。わたし、もう二年も泣かなかった。ゆうべ遅く、こっそりお庭へはいつて、あのわたしたちの劇場が無事かどうか、見に行ったの。まだあるのね。それを見たとき、二年ぶりで初めて泣いたの。そしたら胸が軽くなって、心の霧が晴れた。ほらね、わたしもう泣いていないわ。

ニーナ、泣き止んでトレープレフを見る

ニーナ　　……作家になったのね。あなたは作家。わたしは女優。お互いに、渦巻きの中へ巻き込まれてしまったのね。あのころわたしは、子供みたくにはしゃいで暮らしていたわ。朝目がさめると、歌をうたいだす。あなたを恋したり、名声を夢みたり。それが今じゃどう？　明日は朝早く三等に乗ってエリートへ行くのよ。お百姓さんと相乗りでね。そしてエリートじゃ、教育のある商人連中が、ちやほや付きまどってくれるでしょうよ。むごいものだわ、生活って。

トレープレフ　エリートなんかに！？　どうして！？

ニーナ　　この一冬、契約をしたの。もう帰らないと。

トレープレフ　ニーナ。僕は君を呪いもして憎みもした。でも僕の心は永久に君と結びついている。あなたへの恋が冷めるなんて、僕にはできないことだ、

ニーナ。あなたというものを失い、作品がぼつぼつ雑誌に載り出してからずっと、人生は僕にとって堪えがたいものになった。受難の道になった。自分の若さが急につみとられて、僕はこの世にもう九十年も生きてきたような気がして。僕はあなたの名を呼んだり、あなたの歩いた地面に接吻したりしている。僕は探してるんだ。僕の生涯の一番楽しかった時代を照らしてくれた、あの優しい微笑を。

ニーナ なぜそんなことを言うの。

トレープレフ 僕はひとりぼっちだ。暖めてくれる誰の愛情もなく、まるで穴倉のなかのように寒い。だから何を書いても、みんなカサカサで、カチコチで、陰気くさい。ニーナ。お願いだ。このままいてください。でなけりや、僕もいっしょに行かせてください。

ニーナ 馬車が裏木戸のところを待たせてあるの。

トレープレフ 今からどこへ行くの？

ニーナ 町へ。知ってるわ、アルカージナさんがあの人を連れていらしたこと。

トレープレフ そう。

ニーナ なぜ。

トレープレフ え？

ニーナ わたしの歩いた地面にキスしたなんて、なぜそんなことをおっしゃるの？ わたしなんか、殺されても文句はないのに。わたしは、かもめ。いいえ、そうじゃない。わたしは女優。

ニーナは扉に耳をつける。

笑い声が聞こえたからだ。

ニーナ あの人に来て……そう。かまやしない。あの方は芝居というものを信用しないで、いつもわたしの夢を嘲笑してばかりいた。恋の苦労だの、嫉妬だの、赤ちゃんのことでしょっちゅうビクビクして、つまらない女になってしまっ、でたらめな演技をしていたの。両手のもて扱ひ方も知らず、舞台上で立っていることもできず、声も思うようにならなかった。ひどい演技をやっているなど自分で感じるときの心もち、とてもあなたには分からないわ。わたしは、かもめ。いいえ、そうじゃない。おぼえてらして。あなたは鷗を射ち落としましたわね？ ふとやって来た男が、その娘を見て、退屈まぎれに、破滅させてしまった。ちよつとした短編の題材。何の話をしてたんだっけ？ そう、舞台のことだったわ。今じゃもうわたし、そんなふうじゃないの。わたしはもう本物の女優なの。楽しく、喜び勇んで役を演じて、舞台に出ると自分は素晴ら

しいと感じる。舞台上立つにしろ物を書くにしろ同じこと。わたしたちの仕事で大事なものは、名声とか光栄とか、わたしが空想していたものではなくて、じつは忍耐力だということが分かったの。おのれの十字架を背負うすべを知り、ただ信ぜよ。わたしは信じているから、そう辛いことはないし、自分の使命を思うと、人生もこわくないわ。だから静かよ。

トレープレフ え？

ニーナ 今はとても静かなの。遙か向こうまで見渡せる。迷わないし振り返らないしあの頃よりもね。静かだから。だけど孤独じゃないの。変でしょう？ あなたが書いた通りね。すべてあるわ。わたしは女優。それがすべて。

トレープレフ ニーナ、君は……君は自分の道を発見して、ちゃんと行く先を知っている。でも僕は相変わらず妄想と幻影の混沌のなかをふらついて、一体それが誰に、なんのために必要なのかわからずにいる。僕は信念がもてず、何が自分の使命かということも知らずにいる。

ニーナ シッ……わたし行くわ。

トレープレフ ニーナ。

ニーナ ごきげんよう。わたしが大女優になったら、見にいらしてちょうだいね。約束してくださる？ もう夜がふけたわ。わたしやっと立っているのよ。精も根も尽き果ててしまった。

トレープレフ ゆっくりして行って、夜食ぐらい出すから。

ニーナ 知ってるわ、アルカージナさんがあの人を連れていらしたのこと。

トレープレフ ニーナ……

ニーナ いいえ、駄目。ひとりで行けるから。馬車はついそこよ。ひとりなの、ひとりで大丈夫……アルカージナさんはあの人を連れていらしたのね、そう……トリゴリンに会っても何にも言わないでね。わたし、あの人が好き。前よりももっと愛しているくらい。やるせないほど愛しているわ。昔はよかったはねえ。なんて晴れやかな、暖かい、楽しい、清らかな生活だったでしょう。おぼえていらっしやる？ 犬も、ライオンも、鷺も、雷鳥も、角を生やした鹿も、鷺鳥も、蜘蛛も、水に棲む無言の魚も、海に棲むヒトデも、人の目に見えなかった微生物も、つまりは一切の生き物、生きとし生けるものは、悲しい循環をおえて、消え失せた。もう何千世紀というもの、地球は一つとして生き物に乗せず、あの哀れな月だけが、むなしく灯火をともしている。今は牧場に、寝ざめの鶴の啼く音も絶えた。菩提樹の林に、こがね虫の音ずれもない」

ニーナがトレープレフにしがみつき、声を殺して泣く。

泣く。泣く。泣きつづけるが、ふらりと歩き出して部屋を出る。

トレープレフ ニーナ！

と、トレープレフは呼んだがニーナは振り返らない。
歩き続ける。

トレープレフ ニーナ……！！

まっすぐ歩き続けるニーナ。
その背後で、

トレープレフは拳銃を手を取った。

雷鳴。

嵐の中、ニーナはコートをしっかりと握り締めて歩く。
風にあおられそうになるが、一歩、一歩踏みしめる。
ぶつぶつと、つぶやきながら。

ニーナ 夜明け前、

ニーナ 沼の毒気から生まれたお前たちは、

ニーナ 朝日のさすまでさまよい歩くが、

ニーナ 思想もなければ意志もない、

ニーナ 生命のそよぎもありはしない。

ニーナ お前のなかに、

ニーナ 命の目覚めるのを恐れて、

一発の銃声。

嵐の雨音を切り裂いて鳴り響く。

ニーナ、ぴたりと歩みを止めた。

ゆっくりと振り返る。

ニーナ ……コースチャ……

雨の中。

ニーナ 昔はよかったわねえ。

雷鳴。

ニーナ おぼえてる？ あなた、鷗を射ち落とした。

思わず思い出の彼方を見るが、ふと我にかえる。

ニーナ いいえ、そうじゃない。何の話をしていただっけ？

歩き出す。

ゆっくりと。

しかし、しっかりと強く。

踏みしめる。

ニーナ 今じゃ、コースチャ、舞台に立つにしろ物を書くにしろ同じこと。わたしたちの仕事で大事なものは、名声とか栄光とか、わたしが空想していたものではなくって、実は忍耐力だということが、わたしには分かったの。おのれの十字架を負うすべを知り、ただ信ぜよ。わたしは信じているから自分の使命を思うと、人生もこわくないわ。

嵐の中。

困難な道のりの中。

気がつくど、オリジナルニーナの背後には、

ニーナ1、ニーナ2、ニーナ3が、

同じように力強く、

しっかりと一歩一歩を踏みしめて歩いている。

ニーナ 孤独だろうが、

ニーナ うつろだろうが、

ニーナ 塵と化そうが、

ニーナ 最後に生き残った……

遠くでかもめが鳴いている。

それを耳で聞きつつ、

ニーナたちは歩くことをやめない。

ニーナ　それがわたし……このわたし……

おしまい